

豚の疣贅性心内膜炎から分離された *Streptococcus suis* の性状解析

○樋渡佐知子

長崎県川棚食肉衛検

【はじめに】 *Streptococcus suis* (*S. suis*) は、豚レンサ球菌症の主要な原因菌の一つであり、人獣共通感染症の原因菌である。今回、豚の疣贅性心内膜炎病巣部から検出された *S. suis* 株について(1)病原性および(2)薬剤耐性を把握するため性状解析を実施した。

【材料および方法】 2009年2月～2018年8月に当所で豚の疣贅性心内膜炎から分離した *S. suis* 100株(32農場)を用いた。(1)莢膜合成関連遺伝子タイピング法による血清型の推定、線毛関連遺伝子プロファイリングによる Sequence type (ST) complex の推定、病原性関連遺伝子の血清白濁化因子 (OFS) を調査した。(2)任意に選出した46株(32農場)についてディスク法により7薬剤(ペニシリン(PCG)、カナマイシン(KM)、エリスロマイシン(EM)、リンコマイシン(LCM)、オキシテトラサイクリン(OTC)、スルファメトキサゾール・トリメトプリム配合剤(SXT)、マルボフロキサシン(MBFX))の薬剤感受性試験を実施した。

【成績および考察】 (1)血清型は94株が2型または1/2型、1株が1型または14型、5株がその他であった。推定ST型はST1cが15株、ST27cが82株、その他が3株であった。今回、血清型2型かつST1cまたはST27cと推定される株が94株(94%)検出され、疣贅性心内膜炎由来株のほとんどが人にも疾病リスクの高い強毒株であることが判明した。農場ごとにみると推定ST型はST1cまたはST27cに偏る傾向にあり、農場内での同一菌株の汚染が維持されていると思われた。ST1c15株はすべて1型 *ofs* 遺伝子であり、血清白濁化活性を保持する1型OFSがST1cをより強毒にしている因子の一つであることを示唆する報告と同様の結果であった。ST27c82株はすべて3型 *ofs* 遺伝子であり、ST27cの病原性にはOFS以外の因子が関与している可能性が示された。(2)すべての株がMBFXに感受性を示したが、LCM、OTC、EMに耐性株が多く認められ、46株中45株(97.8%)がいずれかに薬剤耐性を示し、39株(84.8%)が2剤以上に薬剤耐性を示した。今後、と畜場における食肉の衛生的な処理に関する指導と農場における飼養衛生管理の徹底、抗菌性物質の適正使用の意識啓発が重要であると思われた。